

# 好きです!! にしわき わたしのふるさと

今、この時を輝いて生きる  
一次世代につなぐ、心豊かな人づくり、まちづくり—  
教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

## 教育環境の整備を進めています

市では、子どもたちが安心して学習できるような教育環境の整備を進めています。平成20年度から耐震化工事を進めた結果、非木造校舎等の耐震化率は94・4%となる見込みです(平成26年度末)。また、西脇小学校木造校舎については、検討委員会を設置し、校舎の整備と将来計画について検討しています。

西脇小学校の木造校舎は、県の景観形成重要建造物に指定(平成20年3月28日指定)されており、景観的価値を有するとともに、卒業生だけでなく地域にとっても愛着のある建物です。しかし、建築後約70年が経過しており、耐震診断の結果を踏まえ、校舎を安全な施設とするための対策が必要となっています。この木造校舎については、費用面や管理運営面だけでなく、景観や地域共生などの観点からも、そのあり方を検討する必要があります。西脇小学校校舎基本計画検討委員会を設置し、校舎の整備と将来計画について検討しているところです。

現在、専門部会で保存に関する技術的検討などを行っていますが、今後も、検討委員会、専門部会を開催するとともに、市民アンケートや市民フォーラムの開催、西脇小学校児童によるワークショップの開催などを検討しており、平成26年12月ごろをめどに、全面保存、一部保存、建て替えの方向付けを行い、検討委員会としての意見をまとめることとしています。

### 学校園施設の耐震化

学校園の非木造施設の耐震化については、耐震診断結果に基づいた耐震補強工事を実施しており、平成25年度末で耐震化率は92・6%となっています。平成26年度には、重春小学校屋内運動場の耐震化工事を予定しており、耐震化率は94・4%となります。

また、平成26年度からは非構造部材(屋内運動場等の吊天井および照明等)の耐震化を進めるとともに、幼稚園施設の耐震化、西脇小学校木造校舎の整備を進めていきます。



西脇小学校木造校舎の外観

## あぐいこらむ 71 自然の恵みを人からへ



増やし、引き続き安全で安心な地元農産物を消費者の皆さんにお届けします。

7月5日(土)、6日(日)に3周年記念イベントを左記のとおり開催します。ぜひ、ご家族で西脇の旬をお楽しみください。皆さんのご来場を心からお待ちしています。

### 「ありがとう3周年」北はりま旬菜館

西脇市立北はりま農産物直売所「北はりま旬菜館」は、循環型農業の推進とともに地産地消、地元農家の育成などを目的に、平成23年7月8日にオープンしました。

当初は農家も試行錯誤しながらの生産ではありましたが、今では消費者ニーズに合わせて、旬の野菜も長い期間味わえるよう工夫を凝らした生産

等に取り組んでいます。また、特産品化を目指して取り組んでいる冬の「子持ち高菜」、春の「アスパラガス」、夏秋の「イチジク」も順調に収量が増加し、北はりま旬菜館をにぎわせています。

市内出荷者は104名(4月1日現在)。昨年度から始まった「西脇ファーマーズブランド」も順調に栽培品目を

ポイント5倍▽西脇多可つたの会(5日のみ)▽ピザを作ってみよう(北はりま地域づくり応援団)500円(5日のみ)▽ちびじゃが・ちびたまねぎ詰め放題39円▽キャベツ焼き▽手づくり市(市内在住出店希望者は北はりま旬菜館まで)など

## 西脇市消費生活センター

☎22-3111(生活環境課内)  
No.106  
光回線電話の勧誘にご注意を

大手電話会社を名乗り「光回線にすれば電話料金が安くなる。この地区はすべてのお宅が工事をしている。光回線に変えないと今の電話やインターネットが使えなくなる」などと勧誘し、強引な契約を行うケースが増加しています。

電気通信サービスには、安さや無料を強調し消費者の理解が不十分なまま契約に至るケースが多い傾向にあります。しかし、電気通信事業法にはクーリング・オフの規定がなく、訪問販売や電話勧誘販売であっても契約解除できません。契約書面がなくても、口頭のみで契約が成立します。解約を希望しても高額な解約料を請求されるケースがあります。事業者によっては、事前無償契約解除制度を設けている場合もあります。

勧誘されてもすぐに了承せず、契約内容や利用料金、解約条件等を確認し、必要がなければきっぱり断ることが重要です。困った時は早めに消費生活センターにご相談ください。

※光回線・光ファイバーを使った通信回線で、高速・高画質のインターネット接続ができる。利用するには、工事費や光回線使用料、インターネットのプロバイダ料金、光電話の基本料金と通話料などが必要になる。

## 心のスケッチ

69

## 人権教育室コラム

### 障害者スポーツ大会で感じたこと

5月24日(土)、三木総合防災公園で開催された「第8回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会」陸上競技の部で、西脇市チームが2度目の総合優勝を果たしました。汗ばむ陽気の中、選手は一生懸命競技し、多くの選手が自己記録を更新しました。そして、多くのメダルを獲得しました。

伴走者とともに力の限りに競技する姿、車いすで懸命に走る姿など、最後まであきらめずゴールを目指す姿はたいへんさわやかで感動的でした。また、スタンドからはそれぞれの選手に温かい声援が送られ、会場全体に一体感が生まれました。

身近で選手の活躍を目の当たりにし、多くのことに気がつきました。視覚障害者の50メートル走では、音を鳴らすことにより、選手に走る方向を知らせていました。このことにより、自分のコースを間違えることなく走ることができ、聴覚に障害のある選手には、手話通訳や要約筆記により競技のことを説明して

ました。それぞれの障害の特性に合わせて、選手一人ひとりが競技しやすいようにさまざまな支援がなされていました。そして、その支援の内容や方法が年々細かく工夫され、それぞれの選手のニーズに合ったものになっていることに気づきました。それは、障害があるなしにかかわらず、誰もが気持ちよくスポーツのできる環境づくりが進んでいることにほかなりません。

障害者差別解消法が平成25年6月に制定されました。この法律では、障害のある人が困っているときに、その人の障害に合った工夫ややり方をしていく必要性が記されています。

2020年には、東京オリンピック、パラリンピック大会が開催されます。誰もがスポーツを楽しめる環境整備がさらに進み、障害のある人もない人も気持ちよく汗を流せ、夢や希望の持てる社会になることを願っています。

## 市長からの手紙

西脇を元気に!!

06

西脇市長 片山象二

### 播州織の海外進出に尽力した吉田多郎氏の足跡を辿って

播州織は、寛政4年(1792年)年に比延庄村の宮大工飛田安兵衛翁が京都西陣から織物技術を持ち帰ったのが起源と伝えられています。一方で、海外進出に尽力したのが、県立工業技術センターの前身「兵庫県工業試験場西脇分場」の第2代分場長を務めた吉田多郎氏です(大正11年から12年間)。吉田氏は、エジプト、トルコ、香港などの市場開拓に寄与されました。



播州織の見本帳を手にお父様を懐かしむ近藤光輔さん



兵庫県繊維工業指導所「創立60周年記念誌」を贈呈

先月下旬、横浜市から吉田氏の88歳になる息子さんとお孫さんらが氏の足跡を辿って西脇市を訪れ、郷土資料館で開催中の「播州織見本展」をご覧いただいた際には、播州織を手亡きお父さまを懐かしんでおられました。

普段意識することは少ないですが、先人の英知と努力の上に現在の私たちの生活があります。このまことに生まれたことを誇れる「西脇市」をもに創り、子や孫たちの世代に伝えていきましょう。

7月になり暑さが増してきました。ご自愛ください。